

平成26年度 四国ブロッククラブネットワークアクション2014

開催報告

日時： [1日目] 平成26年11月8日（土）13:00～17:00
[2日目] 平成25年11月9日（日）10:00～12:20

会場：愛媛県武道館（愛媛県松山市）

内容：

[1日目]

- 参加者交流アイスブレイキング 講師：朝井邦子氏（みかめスポーツクラブ）
- 事例発表 「地域に貢献し、地域に支えられる総合型地域スポーツクラブ作り」
- グループディスカッション

[2日目]

- 講演：「2020の先にあるもの ～総合型地域スポーツクラブが刻む歴史～」
講師：猪股康博氏（文部科学省スポーツ・青少年局競技スポーツ課国際スポーツ室室長補佐）
- 日本体育協会からの情報提供

【概要】

1日目は、初対面の人同士が、打ち解けやすくなり、2日間和やかな雰囲気のもとコミュニケーションがとれるよう、参加者全員で交流アイスブレイキングを実施しました。今年は、例年2日目に行っていたスポーツ交流がないため、簡単なレクリエーションで体を動かしながら、四国4県の総合型クラブが交流を深めました。

事例発表では、「地域に貢献し、地域に支えられる総合型地域スポーツクラブ作り」をテーマし、愛媛県・高知県から1クラブずつが、日頃の活動の発表を行いました。

続いて、4つのグループに分かれ、グループディスカッションを行いました。テーマに近づけるような総合型クラブ作り、日頃の悩み等、参加者が意見交換を行いました。

2日目は、「2020の先にあるもの ～総合型地域スポーツクラブが刻む歴史～」と題しての講演、その後、質疑・応答を行いました。

日本体育協会からの情報提供では、地域スポーツ推進部長から toto 助成事業に関して、助成金の適正な活用を行うよう指導がありました。

【討議内容】

[1日目]

【参加者交流アイスブレイキング】

みかめスポーツクラブのクラブマネージャー朝井邦子さんを講師に迎え、約60分間レクリエーションを行いました。円陣を組んだり、2人組から、4人組、6人組と人数を増やしながら、グループで協力するゲームやじゃんけんを取り入れたゲームなど、初対面の人同士でも交流を深め、楽しむことができました。



【事例発表】

コーディネーターを務めたNPO法人ELF丸亀の齋藤栄嗣さんから、テーマ「地域に貢献し、地域に支えられる総合型地域スポーツクラブ作り」の設定理由について説明がありました。その後、ONOスポーツクラブと土佐町ハピネススポーツクラブが事例発表を行いました。

ONOスポーツクラブでは、『地域の声を「かたち」にするクラブを目指して』、学校・保護者と連携をとり、他県・他地域のチームを松山に招待してのスポーツ交流大会の実施、東日本大震災の際、地域住民から支援の声が上がり、被災地の中学校を「小野スポーツ交流大会」に招待した被災地との交流事業、地域のニーズに応え、スポーツ少年団や部活動にない種目のスポーツ教室の開催、小野どろんこ大会・野球教室など、地域の子どもから大人まで楽しめるイベント開催について発表がありました。それぞれ、ONOスポーツクラブが、地域の声を受け、関係機関と連携をとりながら進めてきた事業でした。スポーツの力で、地域の子どもたちを笑顔にしたいという願いが込められていました。

土佐町ハピネススポーツクラブでは、「まちづくりは人づくり。人づくりは健康づくり。健康づくりはスポーツから」をもとに、自然とふれあいながら競技を楽しむ、子ども向けのトライアスロンであるキッズエクステラ、2泊3日、3町村で9種目のスポーツに親しむ小学生対象のレイホクゴロワーズ、0歳から高齢者まで参加でき、クラブ会員以外も参加できるおもしろ運動会について発表がありました。実施している事業のほとんどが、地域住民の協力を得て実施しています。また、体協や社会福祉協議会と連携・協力を図り、町内すべてのスポーツイベントを通して、まちづくり、人づくりに貢献しています。今後も、地域コミュニティの核となるクラブを目指しています。



【グループディスカッション】

「地域に貢献し、地域に支えられる総合型地域スポーツクラブ作り」をテーマに、4グループに分かれてグループディスカッションを行いました。

① グループ

- ・ 対象となる人口規模にも左右されるが、地域にこだわらず他地区も巻き込んだクラブ運営も必要ではないだろうか。また、クラブの自立のためにも施設の指定管理を受けることは非常に大きい。地域への貢献としては、行政機関への企画の持ち込みや、地域資源を活用し、地域のPRにつなげることも大変重要である。また、ブームでもあるマラソン大会を開催することによって地域の活性化に貢献する。正解のない課題も多く、地域の実情を踏まえ、それぞれのクラ

ブが判断していかないといけない。

② グループ

- ・ 地域への貢献に関しては、対象を子供とするか、高齢者とするかによって異なってくるが、例として高齢者がスポーツを通じて元気に暮らせるようにすることで、医療費の削減につながる。クラブの活動が子供の健全な育成や世代間の交流につながっている。クラブのあり方としては、地域のすべてのスポーツイベントに関わっていくことで地域の核となる。既存団体の活動と重ならないようにすることで幅広くニーズに応えていく。

③ グループ

- ・ ONOスポーツクラブより、事例発表で話しきれなかった情報提供があった。年会費 3,000 円、大会参加費 15,000～20,000 円程度、大会助成費として松山市より助成金がある。toto 助成は受けず、スタッフは、すべてボランティアである。地域の関係者（種目）から相談があった場合は、関連する団体等の仲介を行い、連携しながら解決している。各クラブが、地元に対して行っている事業等の報告を行った。地域に貢献し、地域に支えられるクラブになるためには、まずクラブを知ってもらうことが大切であり、活動をアピールすることが重要である。

④ グループ

- ・ 地域とのつながりを3つの観点から考える。クラブ以外の他の団体とのつながりでは、老人会や婦人会と協力し防災活動に取り組む事例や、クラブの運営委員が他の団体の役員をしていることをきっかけに連携する事例などがあげられた。行政とのつながりでは、委託事業



を引き受けることや、施設使用料の減免など、資金と施設面でのつながりが大きい。学校とのつながりでは、施設利用や、学校間の潤滑的な役割を果たすことなどの事例があげられた。様々な意見の中、地域の一員として認めてもらうことが重要であり、地域に貢献しようとする他の団体との連携はとても重要である。

各グループとも、参加者全員が発言し、活発な意見交換を行うことができました。

[2日目]

【講演】

文部科学省スポーツ・青年局競技スポーツ課国際スポーツ室室長補佐の猪股康博氏を講師に迎え、「2020の先にあるもの ～総合型地域スポーツクラブが刻む歴史～」と題して、講演を行いました。

東京オリンピック・パラリンピック招致のプレゼンテーションでは、スピーチの練習をかなり繰り返し行っていたなど、舞台裏では色々な出来事がある。

ロンドンオリンピック後には、平日にもかかわらず銀座のパレードに50万人もの人が集まり、スポーツの力は並大抵のものではないと感じた。スポーツには、世界と未来を変える力がある。東京オリンピックを盛り上げるためには、日本チームが「勝つ」ことが不可欠ではあるが、競技力を向上させることだけに力を入れたのでは不十分である。そこで我々には何ができるかを考えることこそが重要である。

オリンピックは28競技、約1万5百人が参加、パラリンピックは22競技、約4千人が参加する。それらの競技のうち、クラブが実施しているスポーツは、何種類あるか。障害者対象

の教室はあるのか。2020年の先、スポーツ実施率は必ず増加する。総合型地域スポーツクラブはその受け皿でなければならない。

平成27年1月には東京オリンピックの事前キャンプ候補地応募要項が発表される。自分の地域がキャンプ地になると様々な恩恵が受けられると共に、地域の活性化、スポーツ普及率の向上などにつながる。総合型地域スポーツクラブが地域をリードし行政への働きかけ等、ぜひ応募を検討してはどうだろうか。子供も含め、地域住民がトップアスリートに触れることは地域でクラブを発展させる為にも必要な事であるが、大切なことは、この機会にクラブの将来をきちんと見据えることである。

ここ数年内に日本では大きな国際大会の開催が決定している。それらの情報を受身ではなく自らが情報収集し把握して欲しい。2019年には、ラグビーのワールドカップが開催され、今年度から小学生の授業でタグラグビーを実施しているが、敏捷性を鍛えるのに適している競技である。総合型地域スポーツクラブでも積極的に取り入れてはどうか。一つの教室で多種目の競技をすることも視野に入れて欲しい。2021年には、関西でワールドマスターズゲームズも開催されるので、是非これらの国際大会を意識して活動して欲しい。

また、多くの情報を収集・活用し、地域また行政等に信頼されるクラブに育っていただきたい。

と、2020東京オリンピック・パラリンピック他、国際大会関連の話を中心とし、今後の総合型地域スポーツクラブの新たな可能性について講演をしていただきました。



【日本体育協会からの情報提供】

日本体育協会地域スポーツ推進部長小林寛氏より、toto助成金の活用方法、助成金を受ける団体の心得について説明がありました。近年 toto 助成事業における不正行為が散見されることから、適切な活用を心がけるよう、会計処理等についての確認・連絡がありました。

【まとめ】

例年2日目午後までのプログラムであったが、実行委員会の話し合いで、今回は、2日目午前までのプログラムで実施しました。スポーツ交流、事例発表、グループディスカッション、講演を行い、シンプルではあったが十分満足のいく内容であったと思います。

クラブネットワークアクションでは、四国の総合型クラブが連携を図り、日頃の活動の成果・悩み等を話し合えるよい機会であるため、多くの総合型クラブに参加していただきたいが、参加費・旅費の金銭的な面、開催場所等を考えると、参加者が増えにくいのではないかと考えます。しかし、今回、四国ブロックでは、四国ブロック総合型クラブ連絡協議会を設立し、より一層四国の総合型クラブが連携を図り、交流を深めていく土台が作れたようです。今後の、四国ブロックの発展を期待したいと思います。

四国ブロッククラブネットワークアクション 2014

実行委員長 鍋島 龍夫